

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立神埼清明高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○生徒の授業満足度、系列選択に関する満足度は成果指標を達成しており、将来の職業選択を視野に入れた進路意識が高まった。</p> <p>○授業の充実と改善に向けて、研究授業及び相互の授業見学による指導内容と方法の共有を行う。</p> <p>○目指す生徒像の10の「清明力」のうち、5項目以上が高まったと自己評価する生徒の割合が60%を超えた。「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の取り組みの成果であり、今年度も取り組みを継続する。</p>

2 学校教育目標	<p>【校訓】 清明：清く明るい豊かな心を育て、将来に対して夢と希望を有する人材を育成する。</p> <p>創造：学んだ知識・技術や体験を基礎にして、新しいものを創り出す人材を育成する。</p> <p>精励：何事にも一生懸命、真摯な態度で臨む人材を育成する。</p> <p>【めざす生徒像】 「より良き人生を送るために、学び、考え、挑戦する生徒」 ⇒ 「主体性」・「思考力」・「創造力」・「計画力」・「実行力」の育成</p> <p>「より良き社会を創るために、自他を尊重し、協働する生徒」 ⇒ 「自己肯定力」・「寛容性」・「規律性」・「対話力」・「発信力」の育成</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>①生徒が主体的に学び、考える授業を目指す。 ②生徒が自分の夢や目標の実現に向けて挑戦する「志を高める教育」に取り組む。 ③社会人として必要なマナーやモラルをキャリア教育の一環として育成する。</p> <p>④豊かな心を育む教育の充実を図る。 ⑤部活動など課外活動の活性化に取り組む。 ⑥地域に信頼される学校づくりを推進する。 ⑦学校における働き方改革を推進する。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者							
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言						
●学力の向上	○授業の充実と改善	○「基礎力診断テスト」の活用による学力向上	○生徒が「学び」、「考え」、「挑戦する」できる授業を通して「主体性」「思考力」「創造力」「計画力」「実行力」を育成し、生徒の授業満足度を80%以上とする。	○公開授業週間を設定し、教員が指導方法を互いに学び、研究する機会とする。 ・各教科で1回以上の研究授業を実施し、授業の工夫、改善を図る。	B	・2学期に公開授業週間を設定し、教科を横断した授業参観で、授業の工夫等を共有した。 ・各教科で研究授業を実施した。今後も研究授業は継続する。	B	・生徒の授業満足度は94%であった。 ・公開授業週間では、教科を横断して授業の工夫を共有できた。 ・研究授業では、半数の教が実施したにとどまった。	A	・生徒の満足度も高いので、研究授業は半数の実施でも十分だと思われる。	各教科主任 各系列主任						
					B		・実施済みの「基礎力診断テスト」2回分について分析資料を作成し、職員会議で報告した。		A			・12月実施の「基礎力診断テスト」において、A・Bの生徒数は、2年生が11名(前年/21名)、1年生が29名(前年/22名)であった。D3の生徒数は、2年生が32名(前回9月/41名)、1年生が24名(前回9月/39名)であった。	A	・特になし。	進路指導主事 各教科主任 各系列主任		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○教育活動全般を通して、自他を尊重し協働する生徒の育成を目指し、「自己肯定力」「寛容性」「規律性」「対話力」「発信力」の5つの資質・能力のうち、3つ以上の項目が「高まった」と自己評価する生徒の割合を60%以上とする。	○人権教育についての講演会を実施する。 ・授業や講演会で情報モラル教育を実施する。 ・家庭や地域社会、PTA組織との連携を密にし、効果的な道徳教育の在り方を探る。	・「他者配慮～身近なところにある人権問題～」という演題で人権教育講演会を電子黒板を用いて実施した。 ・LHRでネットトラブルの危険性についての講演会を実施した。 ・各教科で道徳教育全体計画に基づいた授業を実施している。	B	・研修を通していじめの定義を職員に周知し、いじめを覚知した場合は、直に対策委員会を開き、必要とする手立てを行った。 ・1・2学期当初に教育相談週間を設定し個人面談を行い、いじめや悩みの早期発見に努め、早期に対応するよう組織的に行った。	B	・「清明力」が3つ以上高まった生徒の割合は31%、現状維持の割合が53%であった。 ・12月に「インターネットと人権」について各クラスで授業を行った。 ・7月に「進路保障」、11月に「性について考えよう」のテーマで講演会を実施した。	B	・来年度新たに設定する「清明力」については、心の問題なので評価が難しい。「～の取組ができる」という目標の立て方でもよいのではないかと、生徒に個々に具体的な目標を立てさせて、その達成度を見ていくのはどうか。また、「〇〇をできるようにする」という目標を達成するために、行事を実施するようにすることも考えられる。	人権教育担当者 情報モラル教育担当者 道徳教育担当者 各系列主任						
					B		・いじめ防止(いじめの定義、防止の取組、事案対処等)について、組織的な対応ができていますと回答した教職員の割合を90%以上とする。		B			・95%以上の教職員が、いじめ防止について組織的な対応ができていますと回答した。	A	・法の定義に則って積極的に認知、対応することができた。 ・教育相談週間を設定することで悩みや困りごとを早期に見つけることができた。	A	・学校評価アンケートでは、「自分の心身の健康について気軽に相談できる」という生徒の数値が低いので、いじめへの対応が十分にできていると職員が安心するべきではない。	生徒指導主事 教育相談担当者 各学年主任
					B		◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば感じる」と回答する生徒の割合を80%以上とする。		◎「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを発見させる。 ・外部講師による郷土愛を育む講演会を実施する。			B	・朝読書の時間に、「佐賀語り」やDVD教材を視聴し、佐賀県の歴史や自然について学ぶ予定である。 ・外部講師による講演会を2月に実施予定。	A	佐賀を誇りに思う教育の学びを通して、「郷土の価値を再認識できた」と回答した生徒の割合は98%であった。 海外から見た佐賀県の魅力をテーマに講演会を実施することができた。	A	・特になし。
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・年度当初に交通講話を実施することで、交通安全や交通マナーについての意識の定着を図る。 ・登校時の交通安全指導、自転車街頭指導、駐輪場の整理、鍵かけ運動、自転車点検、交通委員会の充実を行う。	・交通事故が5件発生した。目標は達成することができなかったが、大きな怪我となる事故はなかった。 ・外部からの情報提供に迅速に対応し、生徒会に協力してもらうことで、当事者意識を持たせることができ、安全意識の向上に繋がった。	B	・毎月保健だよりを発行し、健康についての情報を提供している。10月には頭痛の種類とその対応についての記事を掲載した。 ・生徒の健康に関する個別の相談には、担任、学年主任、スクールカウンセラーと連携して対応している。 ・夏季休暇後は感染症の流行もあり保健室利用が増えた。 ・1月にがん教育講話を予定している。	B	・登下校時等での交通事故が7件発生した。加害者となる生徒はいなかった。 ・事故が発生した場合の対応については、集会等での講話を含め、都度、具体的に指導した。	B	・生徒が使用する通学路で、特に事故の多い場所をアナウンスするなどの取り組みが必要と思われる。 ・交通事故によるけがの防止のためにも、ヘルメットの着用が増えたとよいと思われる。 ・朝の通学時、校内での教員が運転する車のスピードが速い。	生徒指導主事 各学年主任						
					B		○自分は健康だと感じている生徒の割合を90%以上とする。		B			・身体的に健康だと感じる生徒が83.9%、精神的(心が)健康だと感じる生徒が86.0%であった。 ・保健だよりを毎月発行し、健康に関する情報提供を行った。 ・感染症予防については、「できた」と答えた生徒が87.3%で、昨年よりも10ポイント下がった。 ・生徒の個別対応を十分に行い、健康の保持増進に努めた。	B	・10月に頭痛の種類とその対応についての記事を出しているが、頭痛に悩む生徒が多いのか。スマートフォンの利用が影響を与えていると思われる。	保健主事 養護教諭		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定期的「保健だより」を発行し、必要な情報を発信していく。 ・保健室を訪れる生徒の情報を学年主任及び担任、スクールカウンセラーと共有し連携して指導を行う。 ・健康観察、手洗いや手指消毒、教室の換気など、感染症の予防対策を徹底する。	・定時退勤日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・部活動の適切な休養日設定を推進する。 ・校務システム(メッセージ機能)やメール会議を活用した情報共有を行うなど会議の効率化を図る。	B	・毎月保健だよりを発行し、健康についての情報を提供している。10月には頭痛の種類とその対応についての記事を掲載した。 ・生徒の健康に関する個別の相談には、担任、学年主任、スクールカウンセラーと連携して対応している。 ・夏季休暇後は感染症の流行もあり保健室利用が増えた。 ・1月にがん教育講話を予定している。	B	・時間外勤務時間が前年度より4.1%減少した。 ・定時退勤日、部活動休養日、学校閉庁日の設定について、計画通りに行った。 ・年次休暇取得については、51%の教職員が、県の目標である14日間以上を取得していた。 ・ハラスメント研修をWebで受講できるようにするなど、効率化を図ることができたが、全体的な業務の削減や効率化には課題が残った。	B	・新型コロナウイルス感染症が5類になり、学校行事や部活動の大会が平時に戻って、職員の業務が増えたことを考えると、4%の減少はもっと評価してよいのではないかと。	管理職						
					B		◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば感じる」と回答する生徒の割合を80%以上とする。		B			・定時退勤日を毎週月曜日に設定した。 ・学校閉庁日を8月に5日間設定した。 ・部活動休養日の積極的な設定、年次休暇の取得を推進した。 ・校務システム(メッセージ機能)を活用し、情報共有を行った。また、学校行事や会議の精選、業務の削減(縮減)に引き続き取り組む。	B	・新型コロナウイルス感染症が5類になり、学校行事や部活動の大会が平時に戻って、職員の業務が増えたことを考えると、4%の減少はもっと評価してよいのではないかと。	管理職		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○進路実現	○進路希望の実現	○就職内定率100%を目指す。 ○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%を目指す。	・生徒の進路希望、適正や能力を把握し、受験指導、面接指導の充実を図る。 ・企業、大学、短大、専門学校との情報交換を密に行う。 ・進路検討委員会を開催し、生徒にとってより良い進路を検討し指導を行う。	B	・生徒、保護者の希望を確認し、希望、適性にあつた進路指導を行った。また必要な進路情報の収集、提供に努めた。 ・学年団、進路指導部で生徒の進路について検討を行った。 ・上級学校や企業と情報交換を密に行った。 ・面接指導に加え、進学希望者にはプレゼンテーションや小論文の指導を計画的に行った。	A	・進学、就職ともに3年生全員が進路先を決定することができた。 ・進路ガイダンスを複数回実施し、生徒、学年団に必要な情報の提供に努めた。 ・面接指導やプレゼンテーション、小論文指導等、受験に必要な指導を個々に応じて行うことができた。 ・上級学校、企業との情報交換に努めた。	A	・これからも総合型選抜での受験を頑張らせれば、進学していく大学の幅も広がるのではないかと思われる。	進路指導主事 3年学年主任及び担任 各系列主任
★総合学科の教育活動の在り方	★生徒一人一人と向き合うキャリア教育と探究活動を通じた教育活動の実践	★1年次:自分の「系列選択」に満足していると感じている生徒の割合を80%以上とする。 ★2年次:探究のプロセスを理解していると認識している生徒の割合を70%以上とする。 ★3年次:系列での「課題研究」を通して、「主体性」「思考力」「創造力」「計画力」「実行力」「自己肯定力」「寛容性」「規律性」「対話力」「発信力」のうち5項目以上が身についたと認識している生徒が60%以上とする。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合65%以上、教職員の割合70%以上とする。	・1年次は、自身の進路や将来について考える「ライフプラン」を中心に活動を行う。その為の取り組みとして、進路適性診断、職業教育、進路ガイダンス等を実施する。 ・2年次は、学級や系列での探究を通して、探究活動のシステムを理解させ、社会や地域における「答えのない活動」に挑戦することで、学ぶ意欲の向上を図る。 ・3年次は、系列での学びを深め、その集大成としての探究活動を実施し、中間報告会、総合学科発表会においてその成果を発表する。	B	・1年次:進路実現につながるよう、進路適性診断や各種講演会等を実施した。直接話を聞いたり、経験することで、より具体的に将来について考えることができています。 2年次:「SDGs」についての探究活動を通し、探究のサイクルや探究の方法について理解させることができた。 ・3年次:2年次で学んだ探究の方法を生かし、自身の生き方・在り方からテーマを設定し、各自が問いを立てた。今年度より、探究のサイクルを3回まわし、各回で振り返りと面談をゼミ担当教員及び企画担当と行うことで、より深い学びができています。	A	・1年次:産業社会と人間に授業を通して自分の系列選択に満足していると回答した生徒の割合は93.8%以上となった。 ・2年次:総合的な探究の時間の学習を通して、「探究のプロセスを理解している」と認識している生徒の割合は、83%となった。 ・3年次:総合的な探究の時間を通して、「主体性」「思考力」「対話力」「発信力」が向上したと認識している生徒の割合が95%を超えることができた。また、普段の授業が「探究」の課題解決に繋がっていると回答した生徒の割合が83%と当初の目標値を超えることができた。 ・自分の学校を中学生に勧めることができるかというアンケートに対し、生徒は94.3%、職員は70.5%の教職員が勧めることができると回答した。	A	・十分に高い数値が出ている。	企画研修部主任 各系列主任 各教科主任 各学年主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての評価項目についてB以上の達成度であった。次年度以降は、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づき、教育活動の充実・発展を推し進めていく。 ・総合学科の中核をなす「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」については、3年間を見通した指導内容の見直しを行い、生徒一人一人の在り方・生き方を考えさせる。 ・「新10の清明力(資質・能力)」の育成に向け、カリキュラム・マネジメントの視点を持って全ての教育活動を通して実践していく。
----------------	--